



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：北部の都市アレッポでの戦闘

主席研究員 中島 勇

7月20日から、シリア第二の都市であるアレッポ市内で、初めて本格的な戦闘が勃発した。戦闘は、25日時点でも継続しており、政府軍は近く掃討作戦を開始する模様である。報道を整理すると反体制勢力は、20日からの戦闘で市内の複数の地区を占拠し、検問所を設置した。実態は不明であるが、22日に新組織「連帯旅団」が作戦の実行を声明している。政府軍は、24日には戦闘機を投入した攻撃を行った。昨年から継続しているシリアでの戦闘で、政府軍が戦闘機で市街地を空爆したことが確認されたのは初めてである。シリア軍は、一旦、市街地から撤収し、郊外で再編成しているようだ。近隣のイドリスなどにいた部隊が、アレッポに向かっているようで、シリア軍が撤収した同地域などでは、反体制側が、シリア軍がいなくなった地域での支配をより強固なものにする動きがあると報道されている。24日、米国のクリントン国務長官は、反体制派が占拠した地域を拡大していけば解放区になるとコメントしている。

シリア北部では、反体制派が、7月19日頃からトルコとの国境事務所への攻撃を強化し、22日までに3カ所を占拠した模様である。24日、トルコは、シリアとの国境を全部閉鎖すると発表した。トルコ側は、トルコ人のシリア入国を禁止する一方、シリアからの避難民の受け入れは継続するとしている。シリアとトルコ間の物資の移動は、すでに減少しており、物流面で影響は少ないと推定されている。トルコ政府は、同国が設置したキャンプなどに滞在するシリア避難民は、7月23日時点で4万3564人と発表している。